

教室の窓辺

つたえる つなげる つづける

刈谷市立朝日中学校

教諭 金丸 高久

登下校時、横に広がってしまう生徒が多いという問題点について、生徒会役員がどうしていくべきか考えていたときのことです。

「この問題ってさ、ここで話し合って決めたりとかアンケートをとったりするとかじゃなくて、全校で、皆で話し合うべきなんじゃない？」

役員の一人がつぶやいたこの言葉から、全校討論会の企画は始まりました。

本校では、5年前から「全校討論会」に取り組んでいます。生徒会役員を中心に、生徒が企画や運営をします。

どのような全校討論会を目指すのか。毎回、役員とともに、私も知恵を絞ってきました。どのような議題にすれば皆が考えやすくなるのか。司会者は、どんな言葉投げかけ、進めていったらいいのか、挙手数や参加意識を高める方策など、何度も話し合いを重ね、検討しました。

第1回は、「登下校時のマナーについて考えよう」というテーマでした。はじめての全校討論会、全校で話し合うことに意味を感じてもらえるだろうか、意見を述べる生徒はいるだろうか、この段階になっても不安がありました。しかし、一人また一人と、自分の考えを語り始める生徒の姿に、私は胸が熱くなりました。きつと、役員も同じ気持ちだったに違いありません。

一人の生徒のつぶやきに賛同し、皆でその思いを膨らめ、がんばって話し合ってきたことが実を結びました。やりがいと可能性を感じました。

手探りで始めた全校討論会でしたが、回を重ねるに力があって、事前に学級討論をしたり、学年討論に発展させたりする動きが始められました。全校をあげて、「討論会のレベルをあげていこう」という声があがるようになりました。

先日、近くの神社で次のような言葉が目に残りました。三つの「つ」を大切に、つたえる、つなげる、つづける、です。

全校討論会を通して、自分の考えを「つたえよう」という姿が広がり、学級、学年、そして学校の行動が、思いが、「つながる」ようになってきました。この営みを、レベルアップさせ「つづける」ことだと生徒に伝えます。そして、生徒の思いを形にできる教師を目指して、日々精進していきます。



全校討論会の様子

本校は、平成28年度に市教育委員会の指定を受け、研究発表会を開催しました。私は一人の参加者として、その折に公開された全校討論会を参観することができました。700名ほどの生徒が一堂に会し、真剣に討論する姿に感心させられたことを思い出します。縁をいただき、その翌年度、本校に赴任することになりました。

学期に3度行われる討論会は、生徒たちにとって、よりよい学校生活を創り上げようとする意識を高める機会となっています。今後、生徒自身が、気付き、考え、判断し、行動する力を更に応につけてくれることを願うとともに、校訓「まごころ」を念頭に、常に丁寧な指導を心がけていくとされる先生方に感謝しています。

(校長 犬塚 清隆)